

平成30年度 北海道地域評議会

1. 開催日時・会場

平成31年2月20日（水） 14時00分～16時30分
森林総合研究所北海道支所 大会議室

2. 評議会委員

河野裕之 委員（北海道森林管理局森林整備部長）
佐藤冬樹 委員（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター長）
谷 一之 委員（下川町長）

3. 出席者

北海道支所：支所長、産学官民連携推進調整監、地域研究監、チーム長、グループ長、地域連携推進室長、総務課長
北海道育種場：育種場長、連絡調整課長、育種課長、育種技術専門役

4. 評議会内容

1) 平成30年度活動報告

森林総合研究所全体の組織・課題構成等を紹介した後、北海道支所と林木育種センター北海道育種場の組織、課題構成、資金、連携橋渡し状況、行事及び広報活動についてそれぞれ説明を行った。

2) 北海道支所研究紹介

- ①交付金プロジェクト「トドマツ人工林主伐に対応した低コスト天然林更新施業・管理システムの開発」概要説明
- ②「スズメバチの天敵機能を維持しながら刺傷被害を防止するスズメバチ用巣箱の開発に向けて」

3) 北海道育種場業務紹介

「アカエゾマツ第2世代精英樹(エリートツリー)の選抜」

5. 評議会委員からのコメント・助言

- ・北海道では国有林の2割は人工林でそのうちの7割近くがトドマツである。国有林は施業区分により伐れるところと伐れないところがあるが、国有林の持つゾーニングのGIS（地理情報システム）データと発表にあったトドマツ人工林の経営収支マップを重ねることで、面的な経営判断に大変役立つ。
- ・先進技術・機械を林業に取り入れるにはその根拠が必要になるが、森林総研の研究はそれが出せている。育種で、造林・保育・伐倒のサイクルを短縮できれば林業に役立つ。北海道でも林業大学校がH32年より始まるが、人材育成は大変大事である。若い人がワクワクする産業づくりが必要である。森林総研も協力してもらいたい。

- ・予算や研究勢力が少なくなっている中で大変良くやっている。高等教育の中でも、教科書から林業という言葉が消えており、林業の先行きが懸念されるが、林業は国土を守るという観点からも重要な産業である。林業の地位を高めるのに、森林総研もぜひ貢献してほしい。